

第18回 関東町人会

「第18回関東町人会」が、11月4日（日）にサッポロライオン銀座7丁目店で開催されました。

当日は日南町の出身者約50名が参加、ゲストとして作曲家、編曲家、ギタリストで、日南町PR大使の高橋登也さんと、町出身で今年度新成人の名谷侑紀さん（福栄出身）も参加し、来賓や町からの出席者を合わせると約80名の参加となりました。

会では、故増原聡前町長に黙祷を捧げ、梅林文夫関東町人会会長（日野上）のあいさつや新成人の紹介などが行われたあと、各地域に分かれての懇親が行われました。

町人会は関東と関西で隔年ごとに開催されており、来年は関西での開催となります。ふるさと日南町を語りあうまたとない機会ですので、多くの方のご出席をお待ちしております。



今回は、皆様から頂いた「ジビエ」関連の質問に答えします。

「ジビエ」って何？と質問を頂きました。お答えします。「ジビエ」とは「狩猟によって得た野生動物の肉のこと」を意味するフランス語です。狭義では狩猟によって得るものだけを指しますが、生け捕りにしたあと餌付けした個体の肉も含めたり、狩猟肉を使った料理のことまで含めて使われることもあります。

「イノシシを獲ってジビエにすれば、肉屋も農家も得るのでは？」という質問も頂きました。お答えします。イノシシをいっぱい獲って、衛生的な処理をしたジビエにして、いっぱい買い取ってもらえれば、肉屋は儲かります。問題となるのは、どれだけ捕獲できるか？どれだけ販路を獲ることができるか？といった点でしょう。

では、いっぱい捕獲すれば農家は得できるか？という微妙な話です。島根県で過去に行われた調査結果によると高い捕獲圧をかけたいたが、純繁殖率は一・二〇に達したと報告されて

**獣害対策
最前線**

**「ジビエ」
って何？**

日野郡鳥獣被害対策協議会
実施隊チーフ 木下卓也
【問い合わせ】72-1399

います。つまり一〇〇頭のうち狩猟で四〇頭捕っても翌年には一二〇頭になっただけということになります。好適な生息地が確保されていないと、捕獲圧を高くしても生息数は減らないのです。好適な生息地とは、エサ資源が豊富なところ、エサ資源が最も豊富な場所は、農地や集落周辺です。農作物はもちろんのこと、収穫残さや誰も採らない柿や栗など、高栄養のものが多いと、ガンガンを捕獲しても、イノシシはドンドン繁殖でき、スクスク育ちます。捕獲だけに頼ると、肉屋だけが得する仕組みが出来上がるのです。

農家が得するには、集落や農地がイノシシの工場になり、防衛することが重要で、「イノシシを減らせ」というなら食わせるな」という標語があるくらい兵糧攻めが重要です。その上で農地に攻めてくる個体を選択的に捕獲すれば良いのです。捕獲は数よりも質が重要です。

ですので、「ジビエは地域振興になるかもしれないが、農業被害対策には直結しません」とお答えしておきます。

